

パンフレット (両親指導の手引き書) のすすめ



③ ことばあそびをしよう

紹介者・静岡県浜松市立二俣小学校

ことばの教室担当・永井さえ子先生

・・・私が一番大事だと考えていることは、ことばっておもしろいんだってことを知ること。

そして、おもしろいものだからこそ、いっぱいいっぱい使っちゃおうって思えること。そうして、たくさんたくさん楽しんじゃうこと。

これにつきるね。

だから、ことばは使わなきゃだめなんだよ。ことばって、使っているうちにうまくなっていくんだ。

使っているうちに、楽しくなって来るんだ。

・・・以上の文は、今回紹介する「③ことばあそびをしよう」からの抜粋です。

著者の阿部先生は、ことばときこえの教室の担当者であり、ことばのマジシャンでもあります。先生の手にかかるとばらばらだった一つ一つの文字が、意味を持って、心を持って躍動し始めるという感じなのです。読むと思わず吹き出し、その後ジワーンと温かいものが体中に広がります。そして、うまくできなくてもよさそうだ、だったら楽しんじゃおう、という気持ちにさせてくれます。

さて、今日通級教室に来るお友達は、4月にピカピカの1年生になったKさん。いつもは明るく元気なのに、今日はちょっと様子が違います。何だか疲れているようで、ご機嫌もあまりよくありません。でも、なおさら明るく、笑顔で「こんにちは、待っていたよ。」と、ことばの世界へ、いえ教室へ誘います。

まず始めに、アクロスティック。五行詩をみせます。(本文 p. 7 参照)

あそべるはずさ、みんなでね。
そうだんしたってだいじょうぶ。
ほうけんだってできるんだ。
うれしかったのしいことばあそび。
ね、やってみよう。

1年生でも、もうすらすら読めます。そして、この五行詩の頭の五文字「あ、そ、ほ、う、ね」を見つけることができたKさんは大喜び。「何があったの?」なんて聞かなくても、これでもういつものKさんに戻っています。

次のお友達はMさん。彼はもう3年生。でも掛け算がちょっと苦手です。九九カードを見せても、掛け算プリントを渡しても、「やらない!」と言って横を向いてしまいます。でも、そんなMさんも「亥の $4 \times 4 = 16$ 」の詩はウインクが9、イノシシ16・・・と元気よく読んでくれます。私も阿部先生を見習って、他の九九のことばあそびに挑戦してみました。Mさんが九九博士になれる日は近い!?

それにしても、九九までことばあそびにしてしまう阿部先生って、一体・・・。

ほんの一例を挙げさせていただきましたが、どのページも楽しいことばあそびのヒントがいっぱい。子どもたちのおしゃべりが楽しくなること請け合いです。ことばの持つおもしろさ、楽しさ、不思議さ・・・、それらがギュッと詰まった1冊なのです。

教室担当2年目の私は、こうして阿部先生やベテラン先生の真似をしたり、教材を共有させていただいたりしていますが、早く自分のワールドへ子供たちを招待したいと思う毎日です。

でも、まだまだこのことばあそびの本は手離せそうにありません。